

生活習慣や学習状況に関する調査結果

▼良いところ

小中学校ともに、「週に1〜3回以上図書館に行く」「地域の行事に参加している」等の項目において、県平均を大きく上回っており、学校外の活動の充実がうかがえます。

▼改善が見られる

小学校では「自分には良いところがある」「家で授業の予習をしている」などの項目は県平均を下回っています。

一方、中学校では「家で計画を立てて勉強している」という項目で県平均を超え、小学生から中学生になり、学習への取り組みが改善しています。



▼課題となるところ

小中学校ともに、小中学生の65%以上が、平日2時間以上テレビを見たりゲームをしたりしており、土日も含めて家庭でのメディアとの関わり方に課題があります。

こうした結果を家庭・地域・学校・関係機関が共有し、今後の取り組みに活かしていきたいと思っております。

なお、各学校においては、それぞれの学校だよりを通じて、詳細にお知らせしているところです。



家庭教育の推進②

「みんなであつなごろう」

「子どものしつけの仕方がよく分からない。」

「子どもの叱り方、ほめ方が分からない。」

「子どもの食や健康についてどのようにしたらよいか分からない。」

これは、7月に町内の保育園の保護者を対象に行った、子育てに関する調査の結果をまとめたものです。

これまで生活の中で育まれてきた力が育たなくなってきたり、それは、他人との交流が少ない、子育てについて相談できる人や子育てを助けてくれる人がそばにいないなど、親の育児力につながる体験の減少が、子育て不安につながっているものと考えられます。

そこで教育委員会では、町民の皆さんと、本町の子どもたちの課題を共有するためにリーフレットを作成・配布しました。

(南部町がめざす子どもの姿(自立編))

また、保育園や学校を単位として、家庭教育の重要性や親としての役割、親子の関係づくりの大切さや、子どもとの接し方などをテーマとする講演会や研修会、親学プログラムをもとにしたワークショップなどを開催し、積極的に学びの場を提供しています。あわせて、子育てに係る相談機能の充実も図っていきます。

さらに、子育て支援や家庭教育の充実を図り、総合的に関係機関や保育園・学校が連携・協働して取り組むために「家庭教育支援チーム」の立ち上げも計画しています。

親同士、また町民の皆さんがつながり合い、心豊かな南部町の子どもたちを育てていきましょう。



「なやみごと」

一人がかかえず
うちあけよう
家族の数だけ
知恵が出るから

文部科学省

「親子で話そう!家族のきずな・我が家のルール」
三行詩文部科学大臣賞受賞作品